

月刊島民

中之島

Vol.97 2016 8/1

●iPadサイズ (210×285mm)

橋を渡る人の「街事情」マガジン

中之島ミステリー研究会



ナカノシマ大学

「船場から、
山崎豊子を考える」

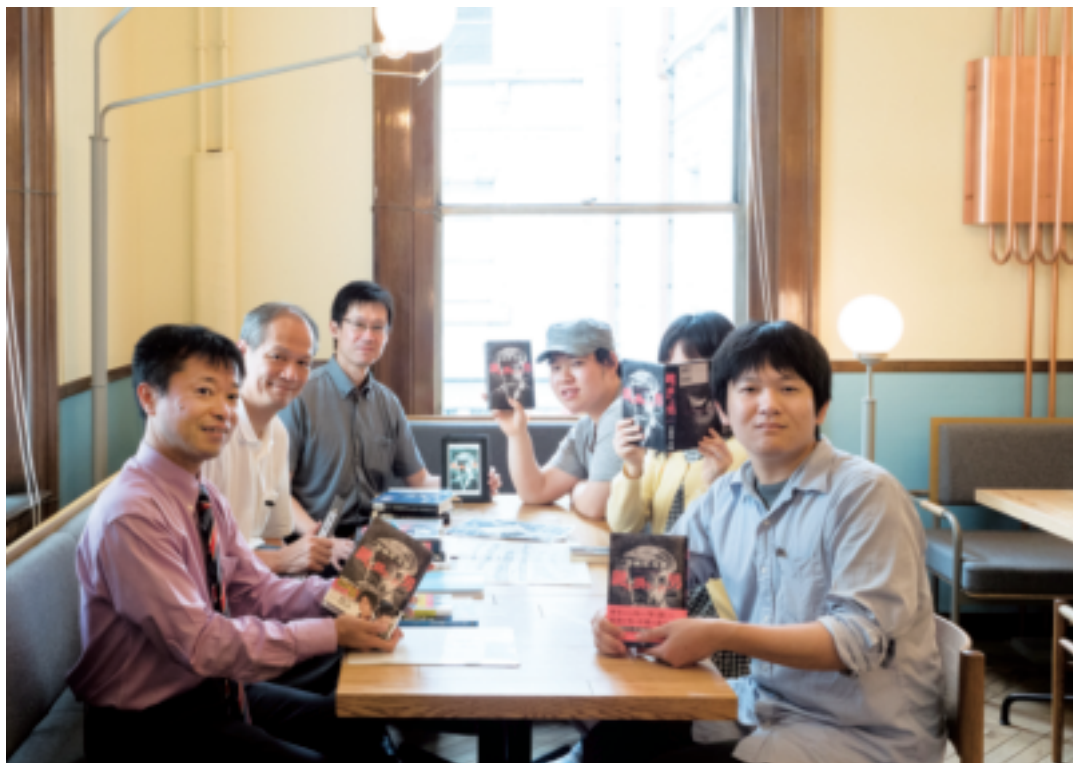
平尾隆弘

申し込み受付中!

ナカノシマ・ストリート・イレギュラーズ

これぞ中之島ミステリー『鍵の掛かった男』読書会

文／大迫力本誌 写真／李宗和



撮影協力／スモープローキッチン(大阪府立中之島図書館2階)

◎はじめに

この読書会では、作品の真相の部分には触れていません。

——お集まりいただいてありがとうございます。

ざいます。特集タイトルが「中之島ミステリー研究会」なので、大学のミステリー研究会でよくやるような読書会をやりたいと思います、有栖川有栖さんのファンや本好きの方々に集まっていたきました。まずはみなさんの感想を聞かせてください。

後藤 私は有栖川さんの



中之島ミステリー研究会 #001
天野立義さん
(同志社大学ミステリー研究会)

『好きな探偵』江神二郎 by 有栖川有栖
「学生アリスシリーズ」の探偵役。中学生の頃に第1作の『月光ゲーム』を読み、どんな時も最善を尽くそうとする姿勢に惹かれました。



有栖川有栖
『鍵の掛かった男』
(幻冬舎)

中之島の西部にひっそりと建つ「銀星ホテル」。そこに5年間滞っていた男が部屋で死んでいるのが見つかった。警察は自殺と断定したが、不審に思ったホテルの常連客が、作家の有栖川有栖とその同級生の犯罪学者・火村英生に真相究明を依頼する。果たして男の死は自殺か、それとも他殺なのか？ 他殺だとすると犯人は誰か？ 謎がまた謎を呼びながら、男の人生と共に少しずつ真相が明かされていく。

最高傑作だと思っています。ただ、私は人間としての有栖川さんが好きなので、個々の作品の優劣はあまり気にならないというのがありまして(笑)。

一番新しい作品がベスト、そういう読み方をしています。

内容について言えば、ホテルの一室で人が死んでいるのが見つかるわけですが、自殺か他殺か最後まで明らかにされず、男の素性もジワジワとしかわからない。そして、ようやく最後までたどり着くと意外性にもものすごくインパクトがある。ここ

がすごいと思いましたね。

天野 作家アリスシリーズ

ズとしては久しぶりの長編でしたが、かなり面白かったです。有栖川さんは「ロジカルなロマンチスト」と言われ、同じシリーズでも作風が変わります。あまり先入観を持たずに読んだのですが、想像のはるか上を飛び越えていきました。

有仲 私は探偵役の火村英生がすごく

好きなのですが、『鍵の掛かった男』では火村の登場シーンが少なく、後半になって火村が登場するまで、アリスが一人で頑張って調査するんです。読書会に際して読み直してみると、アリスが登場人物の一人ひとりと人間関係を築きながら真相に迫っていくところが印象深かったですね。以前、有栖川先生がインタビューで、「アリスは本を読むように解いていく」とおっしゃっていて、その通りだなと思いました。一方の火村は、理屈や物的証拠だけで謎を解いてしまう。そうした二人の人間性がよく現れていました。

リアルな世界に現れる 不思議な小説空間。

大峯 僕はもともと学生アリスシリーズのようなクロスドサークルものの



中之島ミステリー研究会 #002

大峯 魁さん

(大阪大学推理小説研究会)

【好きな探偵】金田一耕助 by 横溝正史
あのくしゃくしゃ頭の和服姿は、イギリスのシャーロック・ホームズのように、日本の名探偵のアイコン。横溝正史の描くあの独特な世界観も好きです。

感じがしない。そこがすごく好きです。幻想的というか、推理小説というジャンルが持つ独特のミステリアスな空気感が最大限に出ている作品だと感じました。

和田 僕はあちこち歩き回るのが好きで、中之島も何度も訪ねているし、文中に出てくる国立国際美術館の展覧会も実際に見に行っていたんです。大峯さんは幻想的という感想でしたが、僕はむしろすごくリアルだと思いました。後藤 有栖川さんは大阪にお住まいなので、関西のさまざまな場所が舞台になることが多いけれど、これは今までで一番リアルに書いているかもしれない。でも、大峯さんの言うとおり非常に幻想的な感じもする。実際の建物や地名に忠実に書かれているのに、一つの夢空間のようにも読めるのが面白いところ。現実とフィクションの両面があって、それがうまく重ね合わ

されて一つの不思議な小説空間を作っている。

それから、作品の冒頭でアリスは「自分が書くミステリーは古いタイプのミステリー小説だ」と言っています。考えてみれば、ミステリーというジャンルも、オーソドックスな形があり、進化した新しい形式のものが求められ、書かれそうですが、古いものがダメかというところでもない。伝統を継承しつつ新しいものを受け容れていく。有栖川さんが推理小説で思い描いていることと、中之島の土地が持っている特徴がオーバーラップする気がしました。まあ妄想ですけど(笑)。

小笠原 私の場合、本の中に自分の勤務先が出てくるので、それだけでも嬉しかったです(笑)。今はもうないですが隣の中央公会堂のオムライスが美味いという会話があたり、この辺りのことが本中にたくさん出てくる。そんな風に自分に身近なところがリアルに描かれている一方で、死んだ梨田さんの過去はベールに包まれた状態で、読み進めていくうちにだんだんと霧が晴れたようにわかっていく。その対称性に引き込まれました。

和田 以前、僕の勤める住吉図書館で、大阪を舞



中之島ミステリー研究会 #003

有仲 さん

(大阪大学推理小説研究会)

【好きな探偵】火村英生 by 有栖川有栖
過去に抱えた不条理に対してあがくことが、探偵をする動機や生き方につながっている様が切ないと同時にカッコイイ。

台にしたミステリー作品ばかりを集めた「大阪サスペンス劇場」という図書展示を企画したんです。そうすると「知ってる場所が出てくるわ!」と借りていく人が多くて。やっぱり自分が住んでいる街や働いている場所が出てくると興味が増すのでしようね。

大峯 僕は北摂に住んでいるので、箕面や豊中あたりが出てくるとめっちゃ嬉しいですね(笑)。後藤 有栖川さんの作品はその楽しみがあるよね。実際はどんなところなのかと巡る楽しさがある。





古くもあり、最新でもある、中之島という舞台装置の効果。

「場所」の話になりましたが、小説の舞台を中之島に設定したことについてはどのように感じましたか？

天野 中之島については、

「大阪がどういう街かを解説するのに最もよいのは、このあたりの橋の上でガイドをすることではないか」と書かれていましたね。有栖川さんは『幻想



中之島ミステリー研究会 #004

後藤 稔さん
(関西学院高等部国語科教諭)

自称・推理小説研究家。著書は「名探偵を推理する1 ボアロ」(書肆侃侃房)など。『好きな探偵』? 私にとって、すべての名探偵は尊敬と憧憬の対象です。とても1人に絞れません…。

運河 でもオランダの

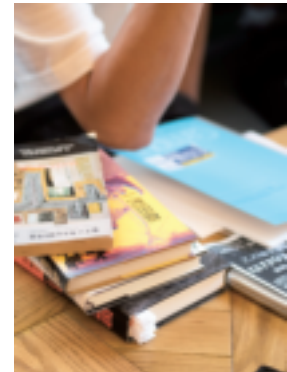
ムステルダムと大阪を舞台にしていますが、「水の都」と呼ばれるような大阪らしさを意識していたのでしょうか。

小笠原 中之島や大阪の歴史に触れている箇所も多くて、中之島にものごく興味を持って書かれたのだとわかりますね。

後藤 そうですね。実は昨日、銀星ホテルの場所に行ってみました。すると、そのあたりは最新式のビル街になっているんですね。そんな中にある、銀星ホテルはレトロでこじんまりとしたホテルとして描かれている。つまり有栖川さんは、古き良き面影をなんとか遺しながらも新しい歴史を迎えている場所として、中之島を想定されているのかなという印象を受けましたね。

小笠原 昭和27年(1952)に開業したという銀星ホテルは、むしろ時代に取り残されたように描かれている。変わり続ける中之島にあって変わらないう銀星ホテル、そしてそこに一人だけ留まり続ける梨田さん…。そのあたりも符号的に思えてきませんか。

和田 時代ごとの変化が激しい場所だからこそ、変わらないことや孤独が際立つ部分はあるかもしれませんね。
有仲 中之島はビル街で、堅苦しくて



取っつきにくい印象があったのですが、この作品を読んで昔から人の営みが脈々と受け継がれている場所だったんだなとわかりました。そうした場所の特性と、アリスや火村によって過去が明らかにするにつれ、だんだんと梨田稔への親近感が生まれてくる展開が何となくだぶるのです。人間関係やすれ違った人への親しみを強調するために、一見、無機質にも見える中之島は、ちょうどよかったのかもしれない。

大峯 僕は今、横溝正史の『悪魔の手毬唄』を読んでいるんですが、これは中之島とはまったく違う

山間の村が舞台です。銀星ホテルの宿泊客が誰も梨田の過去を知らなかったのとは正反對に、田舎では秘密はわりとすぐに広がってしまうんですね。

後藤 大別すると、ミステリーの舞台としてふさわしいのは二つ。周囲から隔絶したそこだけ人が



中之島ミステリー研究会 #005

和田 充洋さん
(大阪市立住吉図書館司書)

『好きな探偵』久太郎少年 by 西澤保彦『七回死んだ男』 自分の意思とは関係なく、ある日突然その1日がループしてしまい、9日間繰り返されるという特異体質を活かした謎解きが面白い。

住んでいるような田舎か、そもそも犯罪が起こりやすい都市空間です。『鍵の掛かった男』は後者だけど、中之島を舞台にしたことによっていわゆるコンクリートジャングルとも少し違う、昔風のところもミックスされているように感じます。

謎解きだけではない魅力を探し出す楽しみ。

最後に、まだ読んでいない方へのメッセージやミステリーを読むことの楽しさを教えてください。

小笠原 やっぱ私はこの中之島が舞台になっていることが一番嬉しかったです。一つ一つの場所が忠実に描かれていて歩けばすぐにわかるので、本を読んでも中之島にきてほしいですね。

有仲 推理小説というと、「人が殺される怖い話でしょ?」とか「難しそう」と言われるんですけど、そんなことはなくて、とても読みやすい作品だと思いますね。

人の営みや人生について深く描かれていて、すれ違った人が愛おしく思えるような小説だと思います。

大峯 有栖川さんの作品は文章が美しい。生き生きとした感じがどの作品にもあって、火村とアリ

「アリスファン」が見た中之島。



中之島ミステリー研究会 #007

タカハシさん
(聖地巡礼愛好家)

香川県在住の有栖川作品ファン。フットワークが軽く、関西にも度々足を運ぶ。『好きな探偵』(もちろん) 火村英生 どんな状況下にあっても犯人を捕まえる姿勢に揺らぎがないところが好き。

「作家アリス」シリーズには、アリスや火村が訪れた場所の「聖地巡礼」を試みる読者が1990年代から多くいる。その背中を後押ししているのが、有栖川作品のファンであるタカハシさん。友人知人に向け、修学旅行のしおり感覚で個人制作

した聖地巡礼ガイド『有栖川を歩く』がファンの間で評判だ。アリスの自宅がある「vol.1上町台地編」や二人が学生時代を過ごした「vol.4京都編」などに続き、現在手がけている最新作vol.5は中之島。誌面のデザインや原稿、写真に至るまですべて一人で担当しており、取材を兼ねて今年1月にはるるる香川県から中之島を訪れた。

「天王寺区を舞台にした『幻坂』、市内が主な舞台となっている『ダリの繭』や夕陽丘町が象徴的に登場する『朱色の研究』など、有栖川作品は大阪が登場しない方が珍しいくらいですが、その土地ならではの事件や、街の情景も物語の一部という作品はほとんどありません。実在の土地の歴史や風景が詳しく描かれ、しっかり物語の舞台になっているという意味で、『鍵男』(鍵の掛かった男のこと)は異色作だと思います」。

聖地巡礼してみたい場所を問うアンケートでは、別タイトルに登場した通天閣が半数を占めたと言うが、タカハシさんは中之島が有栖川ファンの巡礼コースの入口になると話す。「有栖川先生は、中之島という知的で魅力的な大阪の別の顔を知ってほしかったのでは」という推理も。すでにファンの間では、アリスと火村を真似て中之島ダイビルの丸福珈琲店で一服するのがブームになり、やはり本の中に出てくる「かき広」を訪れてみたいという声もある。

「国外ではホームズ、国内では金田一耕助に関連する聖地イベントが流行としてありますが、ミステリー作品の聖地巡礼はあまり盛んではありません。でも『鍵男』のような舞台地が徹底的に紹介されている作品は、むしろ聖地巡礼に誘っているようにも思います。私も舞台地訪問に一步を踏み出す手助けができれば」。

◎有栖川有栖の大阪愛を知る3冊!



幻坂
(角川文庫)
「天王寺七坂」を舞台にした怪談連作集。2013年には実際に有栖川さんと現地を巡るツアーが開催された。



ダリの繭
(角川文庫)
ドラマにもなったアリスシリーズ2作目は、被害者の弟が中之島で働いていたり、秘書が鞆公園近くに住んでいたりと。



大阪ラビリンス
(新潮文庫)
新旧の大阪的作家にも造詣が深い有栖川さん。自らが編者となり、宇野浩二から柴崎友香まで傑作をセレクトしたものと。



スの掛け合いも面白い。そういう謎解きだけじゃない魅力もあります。**和田** 文章について言えば、関西弁がとても自然だと思っていた。たまに「こんな言葉は絶対に使わへんやろ」と引かって、ぜんぜん進まないことってありますよね(笑)。その点、この作品



中之島ミステリー研究会 #006

小笠原弘之さん
(大阪府立中之島図書館
ビジネス支援課司書)

『好きな探偵』御手洗潔 by 島田荘司
高校生の時に読んだ『異邦の騎士』や『占星術殺人事件』がきっかけで、ミステリーの面白さを知ったので。映画も良かったです。

はすいすい読めました。**天野** 面白い推理小説は再読しても面白いというのが僕の持論なんです。なので、読み終えたらまた最初から読むと面白い発見があるかもしれないね。ちなみに、僕は3回読みました。**後藤** 3回はすごいなあ。私はまだ2回ですが、よ

ろしければ少なくとも2回は読んでほしい。そして、2回目を読む方は今から私の言うクイズに答えていただきたい。実は本の中で「月刊島民」というフリーマガジンがある」と書いてあるのですが、ホテルで死んでいた梨田稔は、月刊島民を読んでいたのでしょいか? ミステリーの読み方には、こういう小ネタで遊ぶ方法もありますよ。こうした再読にも耐えうる作品だということ間違いないですね。

※1 作家アリスシリーズ 作者と同名の推理小説作家・有栖川有栖(アリス)が探偵の助手役として登場するシリーズ。『鍵の掛かった男』はその第9長編。

※2 火村英生 作家アリスシリーズにおける探偵役。大学の准教授で臨床犯罪学者。同級生の有栖川と共に事件の謎を解く。テレビドラマでは斎藤工が演じた。

※3 学生アリスシリーズ 大学の推理小説研究会のメンバーが主人公。部員の一人が有栖川有栖という名前だが、作家アリスシリーズとは別人。

※4 クローズドサークル 吹雪の中の山荘や嵐に見舞われた孤島など、何らかの事情で外界との連絡が断たれた状況を指す。

※5 幻想運河 1996年、実業之日本社刊(現在は講談社文庫)。ファンの間では裏ベストとも称される。

Chapter
II

事件は現場で起こっている。 中之島を駆ける名探偵。

古今堂航平 by 姉小路祐 『署長刑事』シリーズ



姉小路祐『署長刑事』(講談社文庫)

全4巻の文庫書き下ろしシリーズ。部下思いで不正を許せない青年署長が、しがらみや不条理に揉まれながらも真相究明に奔走する。同じ作者で、「大阪府警御堂筋署」のベテラン刑事が主人公の「刑事長」シリーズもある。



中之島ミステリー研究会 #008

大迫 力
(月刊島民プレス)

『好きな探偵』エイドリアン・モンク
「名探偵モンク」はアメリカのコメディタッチのテレビドラマ。1話完結でテンポが速く、すぐに解決してくれるのが、イラチにとってはありがたい。

森江春策 by 芦辺拓 『森江春策の事件簿』シリーズ



芦辺拓『時の誘拐』(講談社文庫)

「時」シリーズ第1作。10作目に姉妹編『時の密室』があり、水都大阪の描写が魅力的。森江シリーズは現在22作。怪人と対決する作品や、ガリヴァーに端を発する異国情緒あふれる作品などバラエティ豊か。※品切れ



中之島ミステリー研究会 #009

谷口雅美さん
(作家)

『好きな探偵』ドーヴァー警部 イギリスのジョイス・ポーターが生んだ史上最低最悪の迷探偵。怪しい者は即逮捕、白自強要は当たり前。憎まれっ子世にはばかるを潔く体現するところが好き。

大阪を舞台にした警察小説は多くあるが、姉小路祐の書く『署長刑事』シリーズは、29歳の若さで「大阪府警中央署」の署長を務める古今堂航平が主人公。警察庁採用のいわゆるキャリア組だが、署長刑事の名に恥じず捜査の最前線へ踏み込んでいく。

今堂は隠された真実を追う。完結編となる『徹底抗戦』は、新興フアンD総帥の殺人事件の背景に、府警本部や大阪地検特捜部の絡む警察官僚の派閥問題が横たわっている。検察庁や大阪地裁を訪れながら、古今堂は目の前の大きな壁に気づく。

社会の公正のために働くのが警察と信じる正義漢で、困った人を放っておけない人情肌。頑固な性格は上部組織との軋轢を生むが、部下からの信頼はめっぽう厚い。実は東京生まれで大阪に染まりきらない古今堂署長の人格者ぶりが、ワル者ばかりのドラマの中で際立っている。

元新聞記者の森江春策は刑事事件を専門とする弁護士。本業の副産物である探偵としての能力を頼ってくる者も多い。一見地味で頼りない森江だが、アクの強い関西人に振り回されつつ、助手の新島ともか(7作目より登場)、愛犬の金獅子とともに事件や謎に挑む。

残念ながら15作目をきっかけに、森江法律事務所は東京へ移転してしまっただが、中之島周辺に事務所を長く構えていたため、大阪が舞台の作品も多い。『時の誘拐』も舞台は大阪。府知事候補の長女誘拐事件に、昭和20年代に起きた連続殺人事件が時を超えて複雑に絡み合う。警察を翻弄し、大阪を駆け巡る身代金の受け渡し方法は秀逸。かなりの長編であるが、次々と起きる事件や謎にぐいぐい引き込まれていく。

本作の最後で、いつもは穏やかな森江が発した怒りの言葉には、芦辺拓の出身地・大阪への強い愛情と同時に、消えゆく「大阪のよさ」への嘆きも滲む。

Chapter III

謎解きは歴史のあとで。 捕物帖で知る、昔の大阪。

謎解き×明治の大阪



有明夏夫『大浪花諸人往来』

ガス灯ともる明治の大阪で起こる難事件、珍事件をスカッと解決。テレビの人気キャラ、「海坊主の親方」を生んだ異色の捕物帳。角川文庫版は絶版だが、再編集された「なにわの源蔵事件帳」シリーズ4巻が小学館文庫になった。



中之島ミステリー研究会 #010

本渡 章さん
(作家)

【好きな探偵】明智小五郎 元祖日本の名探偵。乱歩が描く妖しい犯罪者たちよりよっぽど妖しいキャラなのが魅力。特に『黒蜥蜴』などで魅せた。犯罪心理への異常な精通ぶりは妖しすぎる。

有明夏夫『大浪花諸人往来』は、「明治初期の大阪をなめるように書き尽くす」という著者の謳い文句どおり、大阪の魅力を100%引き出した快作だ。昭和54年（1979）の直木賞受賞後は続編が次々と刊行され、主役を桂枝雀が軽妙に演じたNHKドラマ「なにわの源蔵事件帳」も毎週ゴールデンタイムに放映されて大人気。80年代半ばまで浪花をブームのキーワードに押し上げた。

シリーズ7冊に収録の35話は、大川を彩る牡蠣船、巷で話題の別嬪番付、大名行列並みの葬礼、東京・大阪合併の大相撲など毎回明治の浪花風景が臨場感たっぷりに描かれる。源蔵親方の捕物の手並みに、手下のイラチの安吉、化学に強い娘婚の隆平、曾根崎新地の売れっ子芸妓

の駒千根など脇役の個性が花をそえる。浪花の町と人情にたつぷりふれて、ほろりとなれます。

中之島もしばしば話に登場。中でも「蔵屋敷の怪事件」はミステリー色の濃い注目作。蔵屋敷の一角で深夜、鉄砲を撃つような音がして、番犬が火傷し、地面に鉛の粒が落ちていた。三題嚙のような謎に源蔵親方たちが挑む。活躍ぶりは、明治に残った蔵屋敷を舞台に禁制品の密売一味と対決する本編をご覧ください。

シリーズを通して、事件解決の顛末を記した新聞記事で話をしめくくる趣向がまた面白く、テレビドラマでも生かされました。以上、つまびらかにお知らせいたしました。というナレーションの名調子がいまだに忘れられません。



中之島ミステリー研究会 #011
嘉数次人さん
(大阪市立科学館学芸員)

謎解き×町人天文学者

大阪の天文学や町人学者の歴史を研究しています。趣味の読書でも捕物帳が好きで、この「天文御用十一屋」シリーズは、書店でたまたま見つけて表紙買い。なにせ「十一屋」は江戸時代の大坂を代表する町人天文学者、間重富の屋号がですからね。しかも、十一屋に出入りしていた重富の弟子、



築山桂『星ぐるい』 (幻冬舎時代小説文庫)

「天文御用十一屋」シリーズの第1作。大坂の質屋で天文学を研究する宗介は、容姿端麗・頭脳明晰だが性格に難あり。剣術に優れた用心棒の小次郎と事件解決に挑む。次々に起こる事件の背景には江戸幕府の陰謀が…。第3巻まで刊行。

橋本宗吉と思われる人物が探偵役！ 読まないわけにいきません（笑）。宗吉はまったく足取りがつかめない時期があり、作家にとっては想像の余地がある魅力的な人物だと思います。現代で言えば科捜研のような当時の天文学のエッセンスも、ミステリーには合っています。

謎解き×食文化



中之島ミステリー研究会 #012
旭堂南海さん
(上方講師)

作中の至るところに落語ネタがちらばり、話の運びは講談らしくもある作風がニクイ田中啓文さん。水戸黄門や大岡越前などモデルにしやすい人物がいた江戸ではなく、史料が少ない江戸時代の大坂の武家組織を題材にした犯科帳というだけでも珍しいのに、さらに「食いだおれ小説」でもあるん



田中啓文『鍋奉行犯科帳』 (集英社文庫)

新しく大坂西町奉行所に赴任してきた大邊久右衛門。「大鍋食う衛門」の異名の通り、食べることが大好きな大邊の蘊蓄が、謎解きに活かされる。シリーズ第1弾は有栖川有栖さんが解説を担当。最新7巻は南海さんが監修を行った。

です。例えば、私が解説を書かせてもらったシリーズ第6作目『お奉行様のフカ退治』の「ニシンを磨け」には、天満菅原町の乾物屋が登場。食材の仕入れルートを使って悪事を働くというアイデアには、そんな手があったとはと驚きました。実に大坂らしい謎解きものです。



©2015 スカパー!/ KADOKAWA

ロケ地は谷町六丁目のお好み焼き屋[ことも]や、北新地のカジノバー[ゼウス]など。ネティップの北村一輝&猛特訓した濱田岳の大阪弁も見どころのBlu-ray&DVDは好評発売中。同シリーズの『蟻舘』もこの2月に放送され、Blu-ray&DVDは8月5日(金)に発売だ。

視聴者が訪れやすいよう、ドラマの話数やシーンの説明と共に店舗情報がインターネット上で公開されている。大阪フィルムカウンスルが運営するそのサイトのタイトルは「ロケ地で飯食うたらんかい!」。ワインとステッキ、おでんやどて焼きで作戦会議をした二人の足取りを追ってみよう。

なくては』と語って」と話す、プロデューサーであるスカパー!の清野正一郎さん。ディープな大阪の地名や街の地理が詳しく描かれている様に「こまかしくない」と感じた。主役の二人の個性は大阪の空気がつくり出していますし、食事シーンの撮影にはこだわりました。特に桑原は、良い店を知っている太ッ腹な「グルメヤクザ」のイメージ。飲食店の選定には、「黄金を抱いて翔べ」や「プリンス・トヨトミ」映画化にも協力した、大阪観光局の大阪フィルムカウンスルからのアドバイスも。ロケ地は



黒川博行『破門』(角川書店)

建築コンサルタントの二宮と暴力団幹部の桑原の「疫病神」コンビが暴れまわる人気のハードボイルドシリーズ。『破門』はその第5弾で、持ち逃げされた映画製作の出資金を回収するため、関西とマカオを2人が奔走。第151回直木賞受賞。

二宮&桑原コンビは何を食った?

大阪弁が飛び交う黒川博行の「疫病神」シリーズは、昨年スカパー!での実写ドラマ化が話題に。この『破門』という作品実はほぼ全編が大阪がロケ地なのだ。『原作を読んだ瞬間に「大阪でロケをし

Chapter IV

「相棒」たちの足あと。あの二人に「出会う」場所。

取材文/江口由夏(本誌)

作家となる前の江戸川乱歩は職業を転々とし、失業中の大正11年(1922)、東京から大阪へ守口にあった父親の家に転がり込む。その間に執筆した『二銭銅貨』でデビュー後、乱歩は大阪毎日新聞社(現堂島アバンザ)に入社。守口や転居先の門真から京阪電車で通勤し、『D坂の殺人事件』は京阪電車の欄に着想を得たというから、実は「おけいはん」だった。その生活は一年ほど続き、乱歩は退社後に



『江戸川乱歩傑作選』(新潮文庫)

暗号が鍵になる処女作『二銭銅貨』や講釈師がモデルになった探偵・明智小五郎が初登場する『D坂の殺人事件』など、大阪在住時代に着想を得た初期作品ばかりを収録。昭和35年(1960)に刊行されたロングセラーの改裝版。

かつての同僚と「探偵趣味の会」を結成。その例会は毎日新聞社で行われていた。一方横溝は、大阪薬学専門学校(大阪大学薬学部的前身)を卒業し、神戸にあ

たことは、あまり知られていない。集者となり、遅筆だった乱歩の代筆をしたなどというエピソードも。日本ミステリー史の両巨頭が大阪で交流を重ねていたことは、あまり知られていない。

る家業の薬剤店を手伝いながら、小説を書いていた。共通の友人を介して知り合った乱歩の誘いで、横溝は「探偵趣味の会」に顔を出し、同会の機関誌にも名を連ねた。やがて、乱歩は執筆に専念するために上京。追うように上京した横溝は、彼の担当編

「相棒」と一緒にいかが?

「書評漫オグランプリ」出場者を募集

今回の読書会(P2~)の参加者の一人、大阪市立住吉図書館の和田充洋さんは、さまざまな企画を行うアイデアマン。実は読書会の最後にも、『鍵の掛かった男』の「書評漫オ」ネタを披露してください。

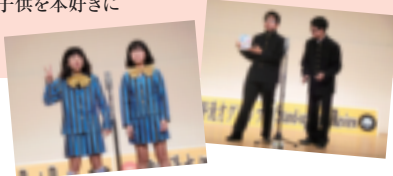
書評漫オとは、その名の通り本の内容を漫才形式で紹介するもので、5年前に和田さんが世界で初めて考案した。西区にある大阪市立中央図書館では、この書評漫オのコンクールも開催。出演者は持ち時間の3分で漫才を披露し、それを審

査員が本を読みみたいと思わせたか、紹介の面白さ、インパクトなどの観点から評価する。

若い世代に本を好きになってもらおうと始めた企画のため、参加資格があるのは10代まで。最初は和田さん自身がネタを作り、図書館ホームページにデモ動画をアップして...と普及に苦心したそうだが、一昨年は本戦出場者を決める予選を開催するまでに出演希望者も増えた。中学生以上の部に加え、昨年から小学生の部も増設。子供を本好きにしたい方も、薦めてみてはいかが?

「第5回 書評漫オグランプリ in OSAKA」は11月23日(水・祝)に開催。出場者(19歳までのコンビまたはトリオ)の募集は9月5日(月)から10月31日(月)まで。詳細は大阪市立中央図書館のホームページ(「ティーンズのページ」)などで確認を。グランプリ当日は観覧もできる。

☎06-6539-3303(大阪市立中央図書館 書評漫オグランプリ担当)
http://www.oml.city.osaka.lg.jp/index.php?page_id=1356





ナカノシマ大学
NAKANOSHIMA UNIVERSITY

21世紀の
懷徳堂
プロジェクト

生前の姿をよく知る
関係者が登場!

2016年9月講座 相愛大学共催

「船場から、山崎豊子を考える」

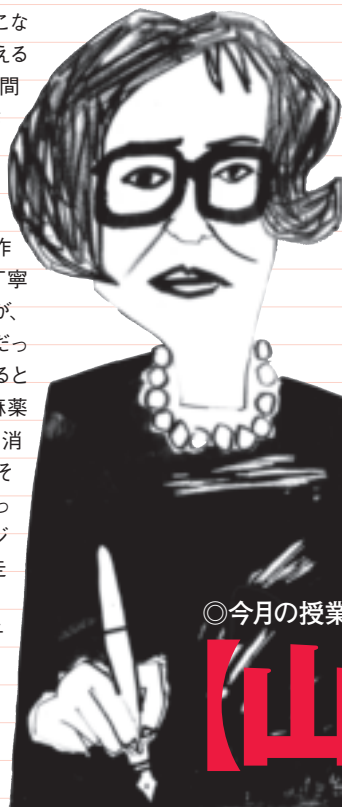
講師／平尾隆弘(『大地の子』『運命の人』編集者)

船場が生んだ大作家・山崎豊子の死去から3年。
担当編集者がその作風と強烈な人間力、を回顧する。

「あれほどエネルギーのある作家は出てこないでしょう」。9月29日で没後3周年を迎える山崎豊子。『暖簾』でデビュー以来56年の間に中長編が17作と意外に少ないのは、1作品にかけの情熱と力量が並外れていたから。ほとんどが映画&ドラマ化されている。

講師の平尾隆弘さんは山崎豊子から最も信頼されていた編集者の一人。時には作家から深夜に度々かかってくる電話にも丁寧なアドバイスを言い、時には苦言も呈したが、山崎豊子は耳の痛いことも受け入れる人だったという。「流行作家も〆境界領域。に入るときが来ます。売れている時の〆残像。は麻薬のようなもので、その作風を変えないまま消えていく人もいますが、山崎先生は自分でその〆領域。に気がついて自分で脱皮していった。その根っこにあるのはやはり船場。ビジネスではなく自らの〆暖簾。を守るために走り続けた」と語る。

当日は、読者が知らない人間・山崎豊子の「意外な」エピソード満載でおとどけ。会場の相愛大学本町キャンパスは80年前に山崎豊子が学業生活を送った船場「旧制相愛女学校」の場所。お楽しみに!



◎今月の授業

【山崎豊子】



船場を舞台にした名作『ぼんち』に登場する「船場と新町の結界」新町橋跡にて。

ひらお・たかひろ 1946年吹田市生まれ。1970年(株)文藝春秋に入社。立花隆、井上ひさし、村上龍、吉本隆明、村上春樹等も担当。『CREA』『週刊文春』『文藝春秋』編集長を歴任し、2009年同社代表取締役。現在は退任し母校・神戸市外国語大学の客員教授。話が実に面白く、飾らずズバッと本質を突く人。乞うご期待。



山崎豊子の母校、
「相愛女学校」が
あった場所が会場に!

実家の「小倉屋山本」からは徒歩10分の通学路。現在は相愛中学校・高等学校、相愛大学(本町キャンパス)の学舎がある。



募集要項

「船場から、山崎豊子を考える」

日時／2016年9月26日(月)
7:15PM～9:00PM頃(開場6:30PM～)
会場／相愛大学本町キャンパス内
受講料／2,000円
定員／180名
主催／ナカノシマ大学事務局 相愛大学
協力／山崎豊子「文学忌」実行委員会

お名前・ご住所・電話番号・人数・講座名を明記の上、下記までハガキ、ファックス、もしくはHP内の応募フォームからお申し込みください。複数名でご参加希望の場合、ハガキ、ファックスについては、人数分の必要事項を明記してください。

〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階
「ナカノシマ大学9月講座」受付係 FAX.06-4799-1341

※先着順で受付後、8月20日前後より受講票をお送りします。

※受講料は講座当日に受付にてお支払いください。

※定員に達した時点で申し込みは締め切らせていただきます。

※当日のお車ならびに自転車でのご来場はご遠慮ください。

ナカノシマ大学の最新情報は

<http://www.nakanoshima-univ.com>

ケータイからは
こちら!→



お問い合わせ ☎ 06-4799-1340
(ナカノシマ大学事務局)

笑う落語の大阪

第二十九回 高島幸次

たかしまこうじ 大阪大学招聘教授、大阪天満宮文化研究所研究員、NPO上落語支援の会理事など。



過日、道修町^{どしゅうまち}の田辺三菱製菓本社で、ちょこっと講演をして来ました。同社2階にある田辺三菱製菓史料館については、本誌5月号で紹介されていましたが、その開館1周年記念イベント「くすりのまち道修町を知ろう」に招かれたのです。

私は「葉の神様 少彦名命のストーリー」を講演し、その後に、桂福丸さんが新作落語「葉屋傳」を披露されました。

『葉屋傳』の田邊五兵衛

私の講演はさておき（気を引く課題ですが、忘れてくださいいな）、福丸さんの『葉屋傳』は、明治の道修町が舞台。田邊五兵衛商店（田辺三菱製菓の前身）の十二代五兵衛が、

ドイツのアーレンス商会から清酒用防腐剤の販売権を得るため、神戸まで人力車を飛ばした実話を踏まえた新作でした。

『兵庫船』『鴻池の犬』の道修町

道修町の名は、古典落語にも散見されます。例えば『兵庫船』では、船に乗り合わせた客たちがそれぞれ

葉の町、道修町の落語あれこれ。

の出身を、三州、和州、紀州などと答えたので、大坂出身の客たちも「州」を付けねばと考えて、全員が「ドオシユウ」だと答える。よく聞くと、堂州（堂島）、道州（道頓堀）、道州（道修町）だったのです。

また『鴻池の犬』では、親分犬のクロが配下犬を地名で呼ぶ中に「道修町」と呼ばれる犬がいます。これらの道修町は単なる地名としてですが、以下の落語では葉の町であることを踏まえて登場します。

『げぼう頭』の葉間屋

『げぼう頭』では、福祿寿のように大きな頭（外法頭）の子が、丁稚奉公にでる。そこで、ある娘のオデキ（吹き出物）を舐めると、立ちどころに治ったことから評判になったため、店の主人は、この丁稚をオデキ治療の「生き仏」として売り出そ

『化物つかい』『ねずみ穴』も葉屋

ほかにも、道修町の葉屋は散見されます。『化物つかい』では、道修町の葉屋十一屋が、口入屋（職業紹介所）に女衆^{おんな}さんの斡旋を頼み、「ねずみ穴」では「葉屋のおばちゃん」「あの道修町の婆あかい」という会話が交わされます。

「葉の町」は、道修町の枕詞みたいですね。

『尻餅』『堀川』の張手の虎

葉の町・道修町のシンボルは、葉の神様・少彦名神社（神農さん）です。『尻餅』で、お咲きは亭主の寝顔を見ながら「まるで道修町の張子の虎みたいな顔して」とつぶやきます。それほかに、神農さんの虎は周知だったのです。

林家染丸師匠は『堀川』のマクラで、酔っぱらいをトラということに触れ、神農さんで授与される「張子の虎」が五葉笹に吊るされているから、笹（ササ）酒の傍で揺れているのは虎だと説明されていました。

師匠は「これはよそで言わんように」と笑いを誘われましたが、実はこの解釈は語源辞書にも載っている一説なのでした。

一度、道修町ネタの落語会を開きたいものです。



取材文／松本創（本誌）



青森と岩手の「ええもん」が
堂島に集まっている。

本

本誌80号の特集にあったように、全国の県事務所やアンテナショップが集まる梅田・中之島に新顔が参入した。6月下旬、ドーチカ（堂島地下街）に開店した「青森・岩手ええもんショップ」。実は昨年まで約10年間、秋田を加えた3県で心斎橋に店を構えていたが、さらなるPRと普及を目指して心機一転、このふるさと自慢激戦区に乗り込んできたのである。

と
は、まだなじみの薄い両県。ま

品ずつ挙げてもらった。

「青森」でできるだし、塩分摂取量が多く、県を挙げての減塩運動から生まれたシリーズ商品。カツオやサバのほかホタテやタイの焼干しといった青森ならではの素材が、関西のだし文化とは

交わる三陸沖で育ったわかめは肉厚でミネラル分豊富。早春にはしゃぶししゃぶで供され、食卓の主役になることもあるユーティリティー・プレイヤー。

▽**盛岡冷麺** わんこそば、じゃじゃ麺とこの冷麺で盛岡三大麺。強いコシの麺と旨味豊かなスープの組み合わせが特徴。欠かせない辛味は添付のキムチで。▽**サヴァ缶** 地元産の脂の乗ったサバのオリーブオイル漬け。東日本大震災からの水産業復興を目指して誕生し、発売3年で100万個超売れた人

「青森は三方を海に囲まれ、山地も多い。有名なリンゴはもちろん、一般に思われている以上に食材のバラエティに富んでいます」

「三陸沿岸の海産物、盛岡で人気の三大麺。水がきれいだからお酒の種類も豊富。岩手には『小さな北海道』的な魅力があるんです」と、それぞれの県

また違った旨味を醸す。▽黒にんにく
国内のにんにく生産量トップを独走
する青森で今いちばんアツい、注目の
健康食品。加熱・熟成した味わいと食
感は大ライフルーツのよう。▽りんご
ジュース ジャム、ドレッシング、ワ
インに菓子類。りんご使用商品はさす
が豊富だが、最もピュアな味はやはり
ジュース。紅玉、王林、星の金貨など
品種も多様なら、容器も一升瓶からお
しゃれボトルまでさまざま。

「若手」リアスわかめ 親潮と黒潮が

気商品。この春、レモンバジル味も加わった。ちなみに「Carai」とは、フランス語で「元氣。」の意。

店に入れば、青森県人が血をたぎらすねぶた祭りや岩手の誇る世界遺産・中尊寺金色堂の写真、それに青森からやってきた副店長の三上啓介さんが迎えてくれる。「なんでも聞いてください。」

い。関西の人に二つの県の魅力を伝え「ます」と、中之島の東北マニア養成へ意欲満ちたのである。

青森・岩手ええもんショップ

大阪駅前第1ビルに合同県事務所を置く北東北チームがご当地の誇るうまいもんや伝統工芸品を厳選、計800アイテムが並ぶ。☎06-6346-0888
10:00AM~8:00PM 第3日曜休



トウミン月報

2016年8月1日発行



**中之島なつまつり
2016**
日時／8月29日(月)
5:00PM～9:00PM頃
会場／大阪国際会議場
1Fプラザ・
中之島パルクス
入場無料・詳細は
<http://nakanoshima-natsumatsuri.jp>



より川に近くなり、中之島らしさも増している。というのも中之島パルクスを起原に、ワンコインのナイトクルーズが出るのだ。コースは富島大橋・中之島ガーデンブリッジ間と、ウエストサイドのクルーズは珍

中之島で増えている 8月の「踊る」風物詩

2013年から始まり、京阪電車中之島駅前の大阪国際会議場という会場も定着してきた「中之島なつまつり」。巨大な櫓を囲んで踊る

しいため、新体験ができて。『これを目当てに来ました』という声も多いグルメ屋台には、同じ京阪沿線から松井酒造が加わり、日本酒の楽しみもプラス。恒例の河内家菊水丸さんによる河内音頭も健在。近隣のオフィスビルから働く島民たちの参加も多いため、昨年は浴衣を着付けてくれる有料サービスが大人気だったとのこと。仕事帰りでも、お誘い合わせの浴衣どうぞ。

「中之島なつまつり」と同じく、大阪の夏の踊りイベントとして「豊国踊り」がある。中之島に昔あった豊臣秀吉を祀った豊国神社を思い出すが、[慶長9年(1604)の豊臣秀吉7回忌で踊られた踊りを再現したものなんです』と大阪城天守閣の青木美佐子さん。当時の屏風絵や史料から衣装や振りを分析し、昨夏に大阪の陣400年プロジェクトの一環として披露された。その好評を受け、「回を重ねて大阪の夏の風物詩へ」という大阪城の意気込みもあり、天守閣

大河ドラマ「真田丸」の舞台 ～豊国踊り2016～

日時／8月13日(土)6:00PM～7:30PM
会場／大阪城天守閣前本丸広場
※観覧・参加無料
問い合わせ ☎06-6941-3044
◎「中之島まつり」でも「豊国踊り」を出張開催します。



前の本丸広場で実際に踊ることができイベントが今年も開催される。同じく屏風絵に描かれている伝統的な曲芸も再現され、ちょっとしたタイムスリップ気分を味わえそう。 (江口由夏・本誌)



関西で最も古く、大正元年(1912)に創立された紳士の社交倶楽部の大阪倶楽部では、毎週水曜日に講演会を開催している。昭和27年(1952)から毎週欠かさずことなく行われており、なんと昨年4月には通算3000回を数えたほどの歴史を誇る。

ふだんは倶楽部会員のみを対象としているが、9月21日(水)に行われる公開講演会では、一般参加も募集している。公開講演会としては5回目となる今回のゲストは、アルピニストとして世界的にも有名な野口健氏。登山家としてだけでなく、富士山での清掃活動をはじめとする環境問題に積極的に取り組む姿勢も注目を集めている。文化庁登録有形文化財である大正13年(1924)竣工

の建物を訪れるチャンスのある貴重な機会。参加希望者は左記の要領で応募を。(大迫力・本誌)

世界的アルピニストを迎える 大阪倶楽部の公開講演会

大阪倶楽部公開講演会

日時／9月21日(水)0:30PM～1:30PM
講師／野口健「富士山から日本を変える」
募集／一般100名(無料・応募者多数の場合抽選)
応募方法／往復はがきに郵便番号・住所・代表者氏名・電話番号・人数(最大2名まで)を記入し、下記の宛先まで郵送。
〒541-0042 大阪市中央区今橋4-4-11
大阪倶楽部「9/21公開講演会」事務局(島)係
締め切り／8月20日(土)消印有効
※8月下旬に抽選を行い、結果を発送。当選者はハガキを当日持参。



文楽は北船場にある御霊神社にゆかりがあったり、物語の舞台として北新地が多かったりと、なにかと中之島周辺に関係がある古典芸能だ。しかし「話が難しそう」「財布に厳しそう」といったイメージで、これまで遠い存在のように思っていた人も多いかもしれない。この先入観を打破すべく、大阪市は市内ホテルのロビーで特別出張上演し、大阪人や外国人観光客の目を釘付けにしたりと様々な取り組みを行っているようだ。

その取り組みのひとつで、昨年大阪市中央公会堂で行われた文楽ビギナーのための「中之島文楽」が大盛況に終わった。5回以上鑑賞したことがある文楽愛好者にも評判だったようで、仕事帰りでも参加しやすい、文楽劇場以外での開催も目新しく、継続開催を

文楽をもっと身近に！ ビギナーのための入門講座



望む声が多かったそうだ。今年はより物語の世界観に入り込める内容で開催される。第一部のトークは落語家の桂吉坊さんを司会に文楽ビギナーのゲストを迎え、第二部で上演する「曾根崎心中」を解説。実際にお初天神でロケを行ったVTRもあり、名作がもっと身近に感じられるだろう。
(江口由夏・本誌)

中之島文楽

中之島文楽

日時／8月25日(木)・26日(金) 7:00PM~9:00PM頃
会場／大阪市中央公会堂 大集会室
第1部 文楽ビギナーに贈る 文楽入門トーク ※ゲストは日替わり
第2部 文楽上演 ※字幕スーパーあり
『日高川入相花王 渡し場の段』『曾根崎心中 天神森の段』
(作:近松門左衛門、脚色・作曲:野澤松之輔、振付:澤村龍之介)
チケット／チケットぴあ・ローソンチケット・イープラスなどで販売
大人(高校生以上)前売券1,800円
小人(小学生以上)前売券800円 ※小学生未満は入場不可
問い合わせ ☎0570-200-888(キョードーインフォメーション)

かもめ船長の 水辺航海日誌

八月〇X日

川はまだまだ遊ばせる。

川から陸へのリレー。



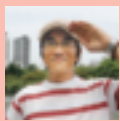
いま私たちは、大阪市役所南側で開催中の「中之島オープンテラス」の「食前御舟」という企画に参加している。まずは船上で食前酒、船を降りたら特設の水辺テラスでBBQという趣向だ。船からビアガーデンの華麗なりレー。緑あり水辺あり、近代建築ありの特等席でガッツリお肉でカンバイ。こりや船長やつてる場合じゃない。

船と水辺の食のコラボ。もっとあちこちで実現してもいいように思うが、そう簡単ではない。舞台は公園や河川という公共空間であり、安全や環境を守るための規則がたくさんある。特に川は、船に乗るか漕ぎだすしか人々がアクセスできる方法がない。段取りは複雑になるし、効率も悪い。結局「陸は陸」「船は船」となりがちなのだ。

そんな中で今回の企画は、ビアガーデンを運営する飲食店、棧橋を提供してくれる船会社、BBQゾーンの土地を所有する大阪市と河川を管理する大阪府、地元の方々、さまざまな力が陸と船との距離を縮めた好例だと思う。

未知なる川底。

一方で「日常を離れて船上の世界をもっと楽しみたい」というクルーズも開拓中。こ



中野弘巳(なかのひろみ)
定員10名の小さな遊覧船「御舟かもめ」船長。食前御舟は中之島オープンテラスへお申込を川底クルーズはかもめwebサイトで受付中。夜通し川に浮かぶ「osakabotai」は7月夏も2回開催。
<http://www.ofune-canon.ne/>



「人に合わせて人に出す。 スタッフの心が揃ってきたなと感じます」

昭和3年（1928）に北浜で開業した「アラスカ」は、関西における西洋料理店の草分けと呼ばれてきました。

そして、大阪朝日ビルを経てフェスティバルタワーに再オープンして4年。目標としてきたアラスカイズムを自分の中に取り込めたことで、自由自在に表現できるようになりました。例えるなら、古典派クラシックの楽譜を自分のオーケストラで演奏できたような。

オープンキッチンはお客さんから厨房が見えますが、私からお客さんの一挙一動が見える基地でもあります。まずお客さん一人ひとりに好きな味や食材をメモした「カルテ」があり、当日「パンでソースを残さずぬぐっているな」とわかれば料理のレイアウトやボリュームといった設計図を調整する。人に合わせて人に出す。これがアラスカ流です。その駆け引きをスタッフ全員が周知して手応えを感じている今、心が揃ってきたなと感じます。同じ店へ年に4回も行けば常連だと思いますが、週4回来てくださるお客さん



さんもいますからね。大阪はお客さんが店を可愛がり続けてくだ

さることで、料理人が育つ土地なんです。そこまで愛された老舗だからこそ、「ア



88年の伝統を重んじつつ、食のプロデューサーや講師としても活躍中 [レストラン アラスカ] グランシェフ 永山康史さん

ようやく取り込めたアラスカイズムを新たに発信する機会も増えてきました。腹持ちがよく、さつと出せるビジネスランチとして提案したビラフは、ANAのプレミアムクラス機内食として、関西空港と伊丹空港発の便で8月まで味わえます。

初めて機内食に洋食を取り入れる試みだったらしく、店舗の外でもアラスカの味を知ってもらえるのは嬉しいですね。

また、朝日カルチャーセンターの「ベジフレンチ」講座は、自らの冒険の場として3年半続けています。これは旬の食材を一つ挙げてコースを作り上げるというもの。スイカのメインディッシュやアスパラガスのデザートなどが生まれるわけですが、あえて難しいことをやってみたくて。ダイレクトに反応がもらえるのいいところ。そこから生まれる新しいものを、このレストランから食文化として発信していくのが私の野望かもしれません。それまで挑み続けます。



祝 祭 へ よ う こ そ 。

FESTIVAL
PLAZA

<http://festivalplaza.jp/>
提供 / 株式会社 朝日ビルディング

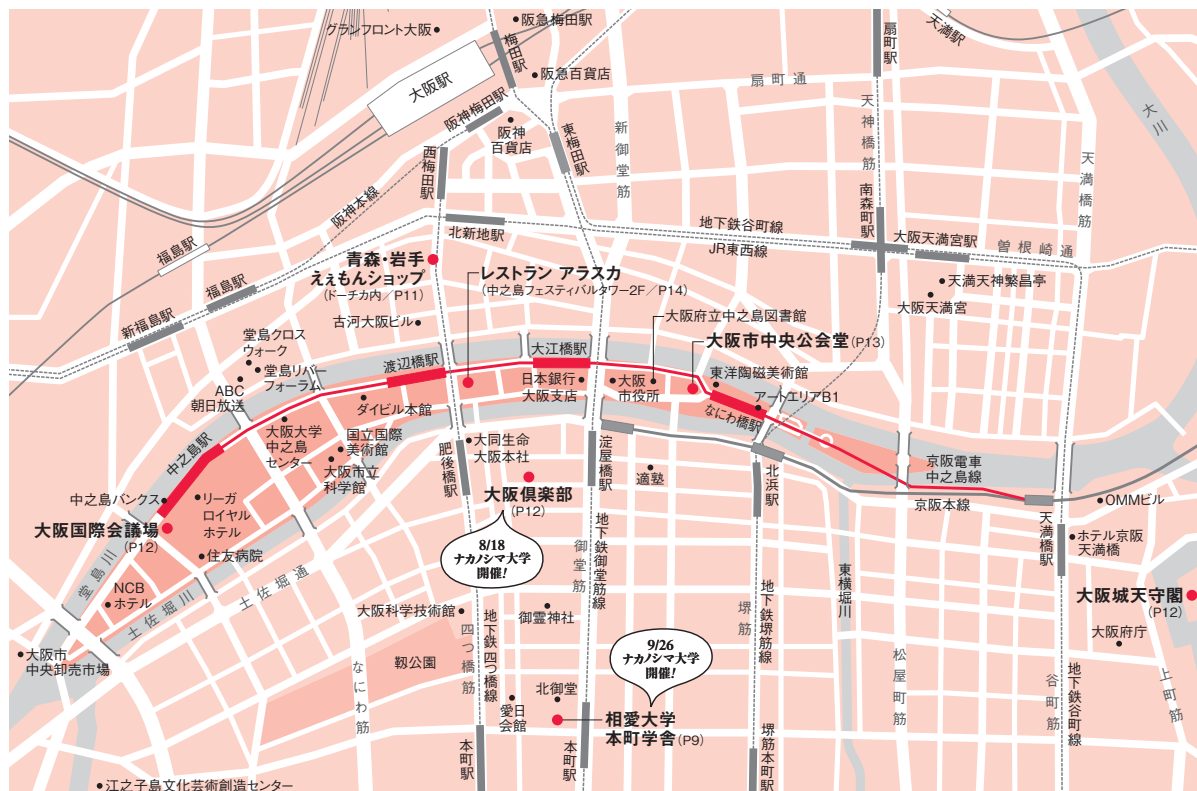
Information from レストラン アラスカ [中之島フェスティバルタワー2階]

店の名をポピュラーにした名物のカレーとビラフの新旧名物。お好きな方を、スープやデザートもついた「定番ランチ」3,200円のコースにどうぞ。ほか、同店の特徴の一つである魚をメインにしたディナーコースは、6,800円から味わえる。ディナーとジャズライブを共に堪能できる「ジャズナイト」など、アイデアが光るプランもあり。
☎06-6222-1800 11:30AM~2:00PM(LO) 5:30PM~9:45PM(LO) <http://www.alaska-festivaltower.jp/>



大「島民」MAP

橋を渡って通う人、川を見ながら帰る人、
みんな「島民」です！



『月刊島民』はここでもらえます。

- 京阪電車関連 京阪電車主要駅／京阪シティモール／京阪モール／デリススタ天満橋店／ホテル京阪天満橋／ホテル京阪京橋
- 大阪市北区・中央区・福島区 〔書店〕旭屋書店 梅田地下街店／紀伊國屋書店 梅田本店／グランフロント大阪店／本町店／ジュンク堂書店 大阪本店／梅田ヒルトンプラザ店／天満橋店／MARUZEN&ジュンク堂書店 梅田店／文教堂書店 淀屋橋店／隆祥館書店 〔公共施設・大学関連施設など〕アイスポット／朝日カルチャーセンター／味の素 食のライブラリー／ABC朝日放送／大阪企業家ミュージアム／大阪倶楽部／大阪工業技術専門学校／大阪国際会議場／大阪市中央公会堂／大阪市立科学館／大阪市立総合生涯学習センター／大阪市役所市民情報プラザ／大阪城天守閣／大阪商工会議所／大阪大学中之島センター／大阪21世紀協会／大阪府立中之島図書館／大阪ボランティア協会／大阪歴史博物館／追手門学院 大阪梅田サテライト／川の駅はちけんや／関西学院大学 大阪梅田キャンパス／慶應大阪シティキャンパス／国立国際美術館／CITY NAIL'Sインターナショナルスクール／芝川ビル／市立住まい情報センター／少彦神社／中央電気倶楽部／適塾／ホテルNCB／メビック扇町／立命館大阪オフィス／館谷大学大阪梅田キャンパス 〔店舗・医院など〕アンドール 本町本店／上町貸自転車／Ultra 2nd／江戸前鰻料理 志津可／天満橋鍼灸整骨院／MJB珈琲店／エルマーズグリーン コーヒーカウンター／大西洋服店／OOO(オーオー)／カセツ／喫茶カンターロ／喫茶SAWA／グラススイート中之島／黒門さかえ／コモンカフェ／The Court／サトウ花店 中之島本店／ザ・メロディ／シアルベストコーヒー／新聞電ビル店／じろろ亭／Girond's JR／心斎橋山田兄弟歯科／住友病院／セブンイレブン大阪証券取引所店／タビエスタイル／たまがわ鍼灸整骨院／東郷歯科医院／NAKAGAWA1948 淀屋橋店／ナンジャノ／バスターレー／花かつ／BAR THE TIME 天神／平岡珈琲店／ビルマニアカフェ／FOLK／ブレイムハウス／ミニシロー／宮崎歯科／やきとりばかや／吉田理容所／LES LESTON
- 大阪市内その他 〔書店〕旭屋書店 なんばCITY店／紀伊國屋書店 京橋店／ジュンク堂書店 難波店／福島書店／柳々堂／ループル書店 〔公共施設・大学関連施設など〕大阪科学技術館／大阪市社会福祉研修・情報センター／大阪市立中央図書館／大阪府立江之子島文化芸術創造センター／川口基督教會 〔店舗・医院など〕あじさい／アートアンドクラフト／欧風食堂 ミリパル／大阪シティ信用金庫 江戸堀支店／御角かもめ／カルチャーカフェ上方／Calo Bookshop and cafe／写真とプリント社／鳥かごキッチン／ネイルサロン スワナ／バルビコ／ホステル64オオサカ／MANGUEIRA／Loop A
- 大阪府下 旭屋書店 京阪守口店／学運堂／Books 呼文堂／水嶋書房 ぐずはモール店／大阪狭山市立図書館／大阪市立難波市民学習センター／大阪大学企画部広報・社学連携事務局／大阪大学 21世紀懐徳堂／大阪大学本部／摂南大学 地域連携センター／野村呼文堂／郵政考古学会／ゆったりんこ／連携考房 童子
- 大阪府以外 ジュンク堂書店 西宮店／恵文社 一乗寺店／水嶋書房 丹波橋店／伊丹市文化振興財団／川のほとりの美術館／納屋工房／タバーン・シンパソン／百練／奈良県立図書館情報館
- 東京 往来堂書店(千駄木)／BOOKSルエ(吉祥寺)／B&B(下北沢)／隣町珈琲(原宿中庭)／ONLY FREE PAPER(渋谷)

◎バックナンバーお譲りします。

バックナンバーをご希望の方には1冊100円(手数料)でお譲りしています。なお、品切れの号もありますが、予めご了承ください。お問い合わせは下記の電話番号まで。

◎定期購読も受け付け中です。

毎月確実に読みたい方は、ぜひ申し込みください。まずは下記の電話番号までお問い合わせ下さい。

次号予告 10周年! 天満天神繁昌亭

この9月15日に10周年を迎える、上方落語の定席である天満天神繁昌亭。
その歩みをふり振り返りながら、あらためて繁昌亭の魅力や意義について考える。

●『月刊島民』vol.98は2016年9月1日発行です！

編集・発行人／江 弘毅(編集集団140B)
編集・発行／月刊島民プレス
若狭健作 網本武雄(株式会社 地域環境計画研究所)
松本 創 江口由夏 大迫 力(編集集団140B)
〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階
Tel 06-4799-1340 Fax 06-4799-1341
制作進行／堀西 賢(ALEGRESOL)
デザイン／山崎慎太郎
表紙イラスト／奈路道程
印刷／佐川印刷株式会社



琵琶湖汽船「ミシガン」



こころまち つくろう
KEIHAN
京阪電車

出町柳 けい子

比叡山延暦寺「根本中堂」



ケーブル坂本駅

ひと夏ぶん
楽しめちゃう
一日です。



ガーデンミュージアム比叡

湖、山、夏、旅、おけいはん

山の上の緑が、湖に吹く風が、こんなに気持ちいいなんて。
比叡山からびわ湖まで、夏のしあわせにひたる旅。
おトクなチケットでめぐりませんか。
くわしくはwebへどうぞ。

京阪電車から、比叡山・びわ湖めぐり



比叡山・びわ湖
山と水と光の迴廊

《おすすめスポット》公開中!>>> www.okeihan.net
京阪電車主要駅のパフレットもご覧ください。

お
け
い
は
ん
の
人